



越 武
谷 蔵
郷 国

411-11-20
5集十三

久伊豆神社略記



御祭神

主祭神 大国主命 言代主命
配祀 溝咋姫命 天穗日命 高照姫命

祭事 暦

一月一日	歳旦祭
一月十四・十五日	どんと焼
二月節分の日	星祭(厄除祈願祭)
二月十九日	祈年祭
五月九日	藤祭太々神楽講祭
六月三十日	水無月夏越大祓式
九月二十八日	例祭
十月三十一日	御燎祭(おかがりさい)
十一月十五日	七五三祝
十一月二十五日	新嘗祭(新穀感謝祭)
十二月十五日	縁起市
十二月三十一日	師走年越大祓式
毎月一日・十五日	月次祭

御由緒

久伊豆神社は久伊豆大明神と古来氏子・崇敬者から崇められてきた、国造りの大神・縁結びの神福の神として知られる大国主命(大国さま)と、その御子神で父神と共に代表的な福の神である言代主命(恵美須さま)を主祭神とし、また配祀として大国主命の御女子神である高照姫命、言代主命の御妃である溝咋姫命、そして皇祖天照大御神の第二の御子であり、出雲国造の祖先神である天穗日命の三柱を奉斎しています。ご創建の年代は不詳ですが、平安時代中期以降には武士団武蔵七党の一である私市党(騎西党)の崇敬も篤く、除災招福の神として武士や庶民の信仰を集めてきました。応仁年間には伊豆国宇佐美の領主である宇佐美三八郎重之が埼玉郡騎西の地を領するところとなり当神社に古刀を奉献し、篤く尊崇したといえます。近世に入ると、徳川將軍家も篤く崇敬し、二代將軍秀忠、三代將軍家光も鷹狩りに際して参拝、休憩したと伝えられ、徳川將軍家から奉納された葵の紋入り金蒔絵の膳椀などが伝えられています。また当神社は古来、現在の越谷市の中核となった元の四丁野村、越ヶ谷宿、大沢町、瓦曽根町、神明下村、谷中村、花田村の七ヶ所の総鎮守とされ、当神社の神宮寺として天文四年に開基された迎撰院(越谷山神宮寺)は五石の朱印を与えられました。このように、当神社は往古より武士・庶民の崇敬・信仰を多く集めてきた御神威・御神徳により、明治の御維新の後には当地の総鎮守として明治六年四月に郷社に列格されております。以来、ご社頭はますますの繁栄、賑わいを見せて現在に至り、今日では氏子区域のみならず、県下はもとより広く全国に互って信仰崇敬を集めております。

招福除災・八方除の祈願と信仰

久伊豆神社の崇敬者は埼玉県内や東京を中心とした関東一円はいうに及ばず、北は北海道から南は九州まで広く全国に及んでおります。年間を通じて多数の方々が祈願・参詣のため当神社を訪れ、生活の折り目・節目としての「久伊豆詣で」によって久伊豆大明神の御神威と御加護を蒙って充実した生活を送っておられます。当神社は、俗に出雲の神様といわれる大国さまと恵美須さまの父子神のほか御一族の三柱の神々をお祀りしており、その御神威は古来「招福除災」、すなわち四方八方から侵し来る様々な災いを追い払い、幸福と平安をもたらす「八方除」の信仰に表れております。このように当神社は特にその「八方除」の御神威の靈驗あらたかなことによって近世には「正一位久伊豆大明神」の御神号を賜わり、招福祈願及び除災祈願の神として武士や庶民の深い信仰を集めてきましたが、その御神徳は現代に生きる私たちにも大きな恵みと御加護をお与えになっています。

招 福 祈 願 家運繁栄、営業繁昌、五穀豊穰、人生儀礼（結婚、安産、初宮、帯解、七五三、入学、就職、開業、還暦、古稀、喜寿、米寿、白寿等）、縁結び、上棟等の諸祈願。

除 災 祈 願 方災除（転居、旅行、普請、造作、建築、土木）、厄除け、星祭、憑霊除、縁切り、地鎮祭、病氣平癒、交通安全、家相、地相、家出帰宅、足止、虫封じ等の祈願。

これらの諸祈願を神礼、授与品をご神前にお供えして大神さまにご祈禱申し上げます。

撤下した神礼・授与品はご家庭にて奉斎していただき、大神さまの御神徳が日々蒙られるようお祀り下さい。

特 殊 神 事

一、藤祭太々講神楽（五月九日）

氏子中の県民俗無形文化財に指定されている神明神楽の講員が五月九日に御神楽を奉納し、営業繁栄や家内安全の祈禱をした後、参集殿にて直会しながら境内の県指定天然記念物の藤の花を愛でるといふ優雅風流な神事です。

一、御燎祭（十月三十一日）

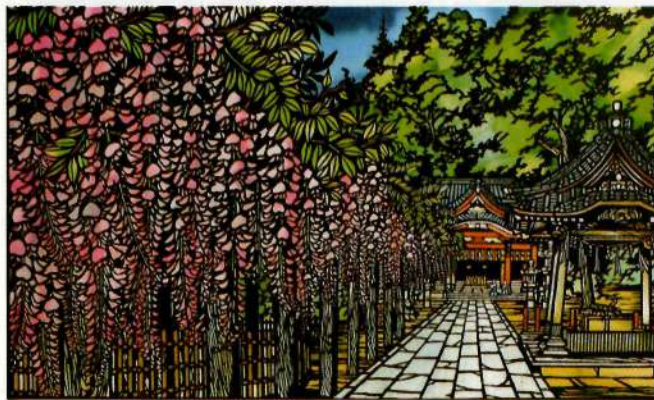
昔から十月は「神無月」といわれ、全国の神社の神々が出雲へおでましになるという信仰が古来広く普及しています。当神社では、大明神が三十一日の夜には神社にお帰りになるといふ信仰からこの御燎祭を斎行し、境内にて燎を焚き大神さまをお迎えし、あわせて氏子・崇敬者にこれより一年間火の災いのないようにと祈願祭を執行いたします。当夜は古神札や古熊手などを持参した多数の参拝者が篝火にてお焚き上げをしますが、この火に当たると風邪にかからないといわれています。晩秋を彩る当神社ならではの神事です。

一、縁起市（十二月十五日）

師走半ばの十五日には境内で縁起物の熊手を売る露店が立ち並び、多くの参拝者が良縁を起こし（縁喜）、久伊豆大明神との結縁を祈願する姿が見られます。元来、竹製の熊手は収穫物を搔き取ることから縁起のよい道具として農民に尊崇されてきましたが、これが普及し、当神社でも縁起市という神事となったのです。

摂社五前神社と星祭

久伊豆神社には境内摂社として五前神社、諏訪神社、稻荷神社、八坂神社、天満宮、御嶽神社、三峯神社などがあります。五前神社には久久能遅神（木）、軻遇突智神（火）、埴安神（土）、金山彦神（金）、罔象女神（水）が祀られ、それが陰陽五行思想と習合して、男女吉凶相性を守護し、また建築土木の安全を守護する神として古来信仰・尊崇されてきました。二月の星祭の期間には厄除や方除を本社に祈願すると共に、この五前神社にも多数の人々が参詣し、祈願をなさいます。



社殿その他の造立年代

一、本殿	寛政元巳酉年建立
一、幣殿	昭和三十九年九月二十八日
一、外拝	昭和五十五年十一月二十五日
一、参集殿	昭和五十八年八月二十二日
一、待殿	平成三年十月十九日
一、回廊	平成三年十月十九日
一、社務所	平成二年五月十四日
一、客殿	昭和四十九年四月二十五日
一、車祓所	昭和六十年九月二十八日
一、手水舎	延宝三乙卯年九月(洗石嘉永巳酉年)建立
一、内庭石灯笼一對	元禄八乙亥年九月建立
一、内庭駒犬一對	享保七壬寅年九月建立
一、内庭水桶一對	天保十二年辛巳年九月吉日建立
一、祓所力石	天保十二年辛巳年九月吉日
一、外庭御獅子一對	文政十丁亥年九月建立
一、石灯笼一對	文化元甲子九月建立
一、銅灯笼一對	文成戌子年十一月二十八日建立

主な建設物と第三鳥居

久伊豆神社には寛政元年(一七八九)に建立された本殿を始め、幣殿・拝殿・外拝殿等の社殿の他、社務所・参集殿・客殿等があります。が、平成三年には今上陛下の御大典を記念して新たに待殿二棟と十二支を置き石にした回廊が造営されました。さらに平成五年に斎行された伊勢の神宮の第六十一回御遷宮で撤下された皇大神宮の南板垣御門の古材を拝領するという榮譽を蒙り、その古材を用いて高さ七・五メートルの第三鳥居が平成七年九月に建立されております。

手水舎の登龍門の彫刻

久伊豆神社の手水舎は延宝三年(一六七五)に建てられたものです。が、とりわけ注目されるのが「登龍門」の彫り物が施されていることです。「龍門」は言うまでもなく中国黄河中流にある有名な險所であり、この急流を登ることができた鯉などの魚は龍になると古来伝えら

れており、日本でも「立身出世の関門」を意味する語として余りにも有名です。まさに龍に化身せんとする鯉の姿は参拝を前に手水を使う参詣者に相応しいものです。



文化財・宝物

本居宣長と並び称せられる偉大な国学者平田篤胤大人は度々当地の門人山崎篤利宅を訪れるなど当神社とも縁が深く、境内の一隅にある旧跡「松声庵」は大人の学問・憩いの場と伝えられています。また境内には昭和十七年に建立された「平田篤胤先生遺徳之碑」があり、さらには宝物として篤胤大人が当神社に奉納した「天岩戸の図」一面があり「此天岩屋戸図者探考古書自図令画工山里貞由写者也 文政三庚辰七月九日 平篤胤」と記されています。この篤胤大人に縁の深いものとして、境内には埼玉県指定の天然記念物の藤があります。この藤は昭和十六年に埼玉県史蹟名勝天然記念物調査会によって天然記念物に指定されたものですが、大人遺愛の樹で流山の門人たちが当神社に奉納したといえます。樹齢は約二百年で株廻り七メートル、花房は一メートルに及ぶものもあり、その偉観は天然記念物の名に恥じず、関東第一との称もあります。



狛犬の足止め麻

家出や悪所通い、多忙な仕事などで家庭を顧みない家族との絆をしっかりと結びなおしたいという願いを込めて、拝殿前の狛犬の足に麻を結びます。古くから「足止めの麻」といわれています。

小教院について

明治初期に中央に大教院、ほとんどの府県に中教院が設置され、各神社や寺院が小教院を開講し周辺住民への文明開化等の啓蒙・教化にあたりました。この小教院にちなみ昭和六十二年から、当代の代表的国学者である國學院大學の神道学博士阪本是丸教授をむかえて毎月一回、勉強会が開催されています。古事記等の古典を読みながら、神々について、我国の国柄について、その時々的事件や社会現象について講義を聞き、太古の昔から今日まで今もなお続いている日本人の生き方、惟神の生き方について理解を深めようと神職のみならず氏子崇敬者も参加しています。

◆鎮座地 ◆参拝路順

埼玉県越谷市越ヶ谷一七〇〇 電話〇四八九（六二）七一一三六番
東武線、又は地下鉄（日比谷線）越谷駅東口下車

JR北千住駅乗換え（地下鉄千代田線）東武線越谷駅東口下車
武蔵野線南越谷下車―東武線新越谷へ乗換え
越谷駅東口下車（徒歩二五分）タクシー有り